

WASP とロータリー

2680 地区 PDG 田中 毅

ロータリー・クラブは WASP **White Anglo-Saxon Protestant** を中心に作られた団体です。

アメリカの東部へ最初にやってきたのはアングロサクソンであり、カソリックの教えに強烈に抵抗したプロテスタントの人達でした。

その後、大飢饉の影響によって、大量のカソリックを信仰するアイルランド人がやってきました。

プロテスタントを信仰するイギリス人によって開かれたアメリカという、宗教上の敵地に乗り込んだアイルランド人は、いじめ、他処者扱い、人種差別を受けました。

彼等はその差別から逃れるため、新天地を求めて西部の町シカゴへ移って、自分達の王国を築き上げました。カソリック教徒がつくった町シカゴに、同じカソリック教徒が世界中から集まってきました。カソリック教徒であるポーランド、イタリア、ユダヤ系ドイツの人達はここに安住の地を見出しました。

団結心と町づくり、政治的手腕に長けたアイルランド人は東部プロテスタントの人達が関わった共和党という政治基盤とは別に、民主党の地盤をつくりました。それが報われたのはアイルランド移民の J.F. ケネディがアメリカ合衆国の大統領に選ばれた時です。ちなみに、ケネディ以前のアメリカ大統領 41 名は、全てアングロサクソン・プロテスタントでした。

WASP の共和党、それ以外の移民の民主党という構図は今でもそのまま残っています。

当初は人種や階級の格差といった偏見の根拠として作り出された、骨相学や人相学といった 19 世紀の疑似科学や、人種的劣等性に基づくナチスのイデオロギーや、人種差別を科学的に纏めようという生物学的決定論も、ロータリーの白人の間では徐々に薄れて同化していきました。

表向きには、宗教や人種的な差別をしないという前提で、ロータリーの拡大が進められてきましたが、WASP 優先の姿は、今でも変わっていません。

1990 年ごろに何回かニューヨークでメイクアップを行いました。マンハッタンには二つのクラブしかなく、ニューヨーク・クラブは全員白人と黄色人種、もう一つのアップパー・マンハッタン・クラブは全員黒人でした。現在は変わっているかもしれません。

ブルーネットや黄色人種のロータリー参加は、比較的早い時期から認められましたが、黒人がロータリー運動に参加できるようになったのは 1960 年代の公民権運動以降であり、女性に門戸が開かれたのは、1987 年になってからです。

これらの変化の殆どは、アメリカの法律の改正に基づくものであり、ロータリーやロータリー財団の管理運営が、アメリカ連邦法やイリノイ州法に左右されるという、異常な状態が続いています。

ロータリー運動を世界に広げるためには、WASP やアメリカの国内法にとらわれることなしに、民族、文化、言語などの多様化を尊重した中間管理組織による管理運用が是非とも必要だと思えます。

アングロ人は、古代ローマの時代には、現在のデンマークやドイツ北部に住んでいたゲルマン民族の一派であり、その後、北海を船で渡ってブリテン島に侵入しました。これが英国における最初のアングロ・サクソン人であり、彼らの言葉が英語の基礎となりました。

アングロ・サクソンとは、「アングリア（イングランド）のサクソン人」という意味です。

現在、アングロ・サクソン諸国とは、英語を公用語とする白人主流派のイギリス、アメリカ、カナダ、所謂、**White Anglo-Saxon Protestant** のことを意味し、人類学的にはルーツに遡るゲルマン人やケルト

人などのヨーロッパ諸国は、アングロ・サクソンからは除外されています。

現在の資本主義は、ライン型資本主義（ヨーロッパ型資本主義）とアングロ・サクソン型資本主義（新資本主義）とに大別されます。前者を採用している国にはドイツ、フランス、北欧三国、日本が含まれ、後者にはアメリカ、イギリスが含まれます。

ライン型資本主義は、修正資本主義の延長線上にあり、ドイツなどのヨーロッパの先進国が採用している資本主義の形態で、お金以外の、仕事自体の充実感や、社会構造や組織構造や、権力・報酬の公正な配分や、友情、職場の結束、取引関係やその他の社会関係から生まれる義理などの共同生活の側面を重要視します。

株主だけでなく従業員・取引先・顧客・社会など利害関係者を幅広く重視します。終身雇用・年功序列制を採用し、賃金格差は比較的小さく雇用は安定しています。富と働く意欲についての考え方以外にも、企業をそこで働く人々の公共的機関であると考えます。

強い製造業部門を維持し、平等主義的な社会であり、所得格差を小さく止める福祉国家の制度を目指しています。社会福祉を重視するために、政治的には大きな政府になります。

シェルドンの経営学に基づくサービス理念は、ライン型資本主義そのものです。

アングロ・サクソン型資本主義は、アメリカとイギリスで典型的にみられる資本主義の形態で、「市場万能主義」と「小さい政府」と「金融万能主義」を基本理念に掲げています。企業は金融市場から直接資金を調達し、株主利益の最大化を優先します。業績が悪化した場合、株主価値を維持するために積極的に人員を削減するため、雇用は不安定になります。賃金制度では成果主義をとり、自己責任を重視します。

何ごとも利益追求のチャンスと捉えて、ゼロから巨万の富を目指すサクセス・ストーリーによって、人々の競争意識を駆り立てますが、他人のことを顧みない個人主義、投機性、バブル化というリスクがあります。イギリスのサッチャー首相、レーガン、ブッシュ大統領の政策がこれに相当します。

しかし、昨今では、ライン型資本主義を標榜するヨーロッパや日本でも、新資本主義に弄ばれて、超高速のコンピューターを駆使した投資に一喜一憂する人が激増してきました。世界中の富裕層や金融機関からファンドを募り、フリードマンやハイエクの真似をして、現物の伴わない先物で巨額の取引を繰り返すのですから、破綻する可能性も高いことは、リーマン・ブラザーズの例からも明らかです。